

安全データシート

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

化学品の名称: 旭 D-D

発行日: 2017/08/08

印刷日: 2017/08/08

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。このSDSは、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: 旭 D-D

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 土壌くん蒸剤。

会社情報

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

140-8617

東京都品川区東品川2丁目2番24号

天王洲セントラルタワー

会社電話番号:

03-5460-2100

das.japan@dow.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先: 0120-00-1017

緊急連絡電話番号: 0120-00-1017

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体 - 区分3

急性毒性 - 区分3 - 経口

急性毒性 - 区分3 - 吸入

急性毒性 - 区分3 - 経皮

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 - 区分2

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 - 区分2A

皮膚感作性 - 区分1

発がん性 - 区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露) - 区分3

吸引性呼吸器有害性 - 区分1

水生環境有害性(急性) - 区分1

水生環境有害性(長期間) - 区分1

**GHS ラベル要素
絵表示又はシンボル**

注意喚起語: **危険!**

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気。
飲み込んだり、皮膚に接触したり、吸入すると有毒。
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
皮膚刺激。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
強い眼刺激。
呼吸器への刺激のおそれ。
発がんのおそれの疑い。
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き**安全対策**

使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること/アースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し, 呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師に連絡すること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。

無理に吐かせないこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

火災の場合: 消火するために乾燥砂, 粉末消火剤(ドライケミカル)または耐アルコール性フォームを使用すること。

漏出物を回収すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

廃棄

残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

他の有害危険性

データなし

3. 組成及び成分情報

この製品は化学物質です。

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
1,3-ジクロロプロペン	542-75-6	(2)-125	2-(13)-29	97.5%
その他の成分	不特定			2.5%

4. 応急措置

必要な応急措置

一般的アドバイス: 応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第8項の保護具の情報を参照。

吸入: 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。呼吸困難の場合は、有資格者が酸素吸入を行う。

皮膚接触: 汚染された衣類を脱がせる。石鹼と大量の水で 15~20 分間皮膚を洗う。医師に治療のアドバイスを求めること。衣類は洗濯してから再使用する。靴などの汚染除去できない革製品は適切に廃棄する。すぐに使用できる適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。

眼に入った場合: 眼を開いたまま 15~20 分水でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5 分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。すぐに使用できる適切な緊急用洗眼設備を設置すること。

飲み込んだ場合: 直ちに医師の診察を受ける。嘔吐させない。直ちに医師の診察を受けるか、救急病院に搬送する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状: 上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項: 皮膚接触により既存の皮膚炎が悪化することがある。患者に十分な換気および酸素吸入を維持すること。喘息の様な(反応性気道)症状を起こすことがある。気管支拡張薬、去痰薬、鎮咳薬およびコルチコステロイドが有効なことがある。肺水腫などの呼吸器症状が遅発することがある。重大な暴露を受けた人は呼吸困難の徴候がみられないかどうか 24~48 時間観察する。吸引すると肺から急速に吸収され、全身への影響を起こすので、嘔吐させるか、させないかの判断は、医師によって行うこと。胃洗浄を行う場合、気管内や食道の管理が必要である。胃洗浄を考える時は、肺への吸引による危険性と毒性影響を比較検討しなければならない。動物実験では、この物質は皮膚感作性の可能性があると示している。しかし、この物質の製造に携わっている従業員では、皮膚感作性は報告されていない。特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。

5. 火災時の措置

消火剤: 水噴霧または散細水。粉末消火器。二酸化炭素消火器。泡消火剤。入手できれば、一般合成泡消火剤(AFFF 型など)またはタンパク泡消火剤が望ましい。耐アルコール泡消火剤(ATC 型)も機能するであろう。静かな水噴霧は、消火用ブランケットとして使用できる。

使ってはならない消火剤: 直接棒状放水しない。直接の棒状放水は消火に有効でないかもしれない。

特有の危険有害性

有害燃焼副産物: 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 塩化水素。一酸化炭素。二酸化炭素。

異常な火災および爆発の危険: 火災の際、ガスの発生により容器が破裂することがある。すべての設備にアースをとる。この物質の引火性混合物は、静電放電でも容易に発火する。蒸気は空気より重く、長い距離を移動して低い場所に蓄積することがある。発火やフラッシュバックが起こることがある。室温で、容器の蒸気スペースに引火性混合物が存在するかもしれない。蒸気は累積し、引火点を上回る温度では引火濃度に至る。第 9 項を参照。

消防士へのアドバイス

消火手順: 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。風上にいること。ガス(ヒューム)が蓄積する可能性のある低い場所に入らない。水は消火に有効ではないと思われる。火が消えて再発火の危険がなくなるまで、水スプレーを用いて火に曝された容器および火災の影響を受けた領域を冷却する。保護された場所から、あるいは十分に安全な距離から消火に当たる。無人ホースホルダーまたはモニターノズルの使用を考慮する。安全弁装置から聞こえる音が大きくなったり、容器の色が変わったりした時は、直ちに全ての人をその場所から退避させる。直接棒状放水しない。火災を広げるかもしれない。引火源を除去すること。危険を伴わずにできるのであれば、容器を火災場所から移動させる。人の保護や建物の損害を最小限にするために、燃焼する液体を水で流して移動させることもできる。静かな水噴霧は、消火用ブランケットとして使用できる。可能なら消防水の流出を防ぐ。消防水の流出を防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。本 SDS の「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。

消火を行う者の保護: 陽圧式自給式呼吸器(SCBA)および防火服(防炎ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む)を着用する。消火活動の際、この物質との接触を避ける。接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。もしこれらが無い場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 場所を隔離する。不必要な人や保護具を装着していない人の、その場所への立ち入りを禁止する。項目 7 の取扱い注意事項を参照。低い場所を立ち入り禁止にする。流出物の風上にいること。漏れたり流出した場所を換気する。場所内は禁煙とする。火災や爆発を回避するため、流出物または放出された蒸気の近くから着火源となるものをすべて除去する。蒸気爆発の危険がある。下水道に混入させない。大量に流出した場合は、風下の住民に爆発の危険性を警告する。再びその場所に入る前に可燃性ガス検知器でチェックすること。すべての容器および取り扱い装置にアースをとる。適切な保護具を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項: 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目 12 の環境影響情報を参照。自然の水路に漏洩するか放出されると、水生生物を殺す可能性が高い。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: すべての容器および取り扱い装置にアースをとる。防爆型ポンプを使用する。利用できれば、泡を用いて覆うか抑える。可能なら、漏出物は回収する。少規模の漏洩: 以下の物質で吸収させる: 粘土。泥。砂。掃き取る。正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。大規模の漏洩: 回収支援が必要な場合、弊社に連絡する。追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 子供の手の届かないところに置くこと。熱、火花、炎から遠ざける。物質を輸送または使用する前に、すべての容器、作業員および設備にアースをとっておくこと。蒸気は空気より重く、長い距離を移動して低い場所に蓄積することがある。発火やフラッシュバックが起こることがある。眼、皮膚、衣服との接触を避ける。蒸気またはミストの吸入を避ける。飲み込まない。取り扱った後は十分に洗うこと。容器を閉じて保管すること。適切な換気装置の下でのみ使用する。製品を輸送するのに空気圧を利用してはならない。取り扱い場所および保管場所は禁煙、裸火および着

火源は禁止とする。空になったとしても容器は蒸気を含有していることがある。空の容器やその近くで、切断、ドリル、研磨、溶接等の作業を行わないこと。作業の種類に応じて、防爆装置の使用が必要になると思われる。項目 8 のばく露防止及び保護措置を参照。

保管: 静電気の蓄積、熱、火花または火炎などの引火源を最小限に抑える。容器を閉じて保管すること。この中に保管してはいけない: 亜鉛。アルミニウム。アルミニウム合金。マグネシウム。マグネシウム合金類。室温で、容器の蒸気スペースに引火性混合物が存在するかもしれない。乾燥した場所に保管すること。納品時の容器でのみ保管する。容器を密閉しておくこと。食品、食料、医薬、飲料水の近くに保管しない。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
1, 3-ジクロロプロペン	ACGIH	TWA	1 ppm
	ACGIH	TWA	SKIN

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

曝露防止

工学的制御: 空气中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具: 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。

以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である: 防塵フィルター付き有機ガス用

手の保護具: この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例: エチルビニルアルコールラミネート (EVAL)。バイトン。許容できる手袋の素材の例: ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム (ニトリルまたは NBR)。注意: 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件 (切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具: ケミカルゴーグルを使用する。ばく露により眼に不快感がある場合は、フルフェイス型呼吸器を使用する。

皮膚及び身体の保護具: この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	液体
色	無色～黄色
臭い	甘い臭い
臭いの閾値	データなし。
pH	6.5 1% CIPAC MT 75 (1%水溶性懸濁液)
融点	適用不可。
凝固点	データなし。
沸点 (760 mmHg)	107 ° C
引火点	密閉式引火点試験 27 ° C EC Method A9
蒸発速度(7° フィアター=1)	データなし。
燃焼性 (固体、気体)	液体には該当しない
爆発範囲の下限	データなし。
爆発範囲の上限	データなし。
蒸気圧	23 mmHg @ 20 ° C
相対蒸気密度 (空気=1)	3.8
比重・相対密度 (水=1)	1.21 @ 20 ° C / 4 ° C 比重計
水への溶解度	不溶性
n-オクタノール/水分配係数	log Pow: 1.82 - 2.1 測定値
自然発火温度	92/69/EEC A15 400°Cを下回らない
分解温度	データなし。
動的粘度	0.66 mPa.s @ 40 ° C
動粘度	0.636 mm ² /s @ 20 ° C
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
液体密度	1.211 g/cm ³ @ 20 ° C デジタル式密度計
分子量	データなし

注記：上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性: 通常の使用条件において既知の危険な反応はない。

化学的安定性: 高温時に不安定。

危険有害反応可能性: 重合は起こらない。

避けるべき条件: 高温にさらされると製品は分解する。分解によるガスの発生が密閉システム内の圧力を上昇させる。静電気の放電を避ける。

混触危険物質: 以下との接触は避ける: 酸。塩基類。酸化剤。以下のような金属との接触は避ける: 亜鉛。カドミウム。マグネシウム。アルミニウム。アルミニウム合金。

危険有害な分解生成物: 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 一酸化炭素。二酸化炭素。塩化水素。分解時に有毒ガスが放出される。分解生成物は以下のものを微量に含むことがある: ホスゲン。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性

急性毒性 (経口)

誤飲すると中等度の毒性がある。通常の作業での誤飲では傷害は起こらないであろう。ただし、大量に誤飲すると傷害を引き起こすことがある。誤飲すると、消化管刺激作用を起こすことがある。

LD50, ラット, > 110 mg/kg

急性毒性 (経皮)

長期間又は広範囲の皮膚接触で、有害量を吸収することがある。

LD50, ウサギ, 333 mg/kg

急性毒性 (吸入)

長期間過剰暴露すると、重篤な有害影響を起こすことがあり、死に至ることもある。過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)および肺に刺激作用を来すことがある。動物にみられる所見には以下のものがある: 倦怠感。

LC50, ラット, 4 h, 蒸気, > 2.7 - < 3.07 mg/l

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

短時間接触で、局部発赤を伴う中程度の皮膚刺激を起こすかもしれない。皮膚の乾燥および剥離を引き起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

激しく眼を刺激することがある。

軽度の角膜損傷を起こすことがある。

蒸気は流涙症を起こすことがある。

蒸気は軽度の不快感や充血を伴い眼を刺激することがある。

感作性

動物試験では、1,3-ジクロロプロペンには皮膚感作性の可能性があると示している。

呼吸器感作性:

関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露
呼吸器への刺激のおそれ。

特定標的臓器毒性、反復ばく露
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
膀胱。
鼻の組織。
肝臓。
肺。
消化器官。
気道。
血液形成器官（骨髄と脾臓）。

発がん性
実験動物では、経口投与により発がん性を示した。吸入暴露すると、オスマウスにおいて良性肺腫瘍の発生率が増大した。

催奇形性
母体に毒性影響を起こした摂取量でも、催奇形性や他の胎児への影響はなかった。

生殖毒性
動物試験では、生殖を阻害しなかった。

変異原性
インビトロ遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。動物遺伝毒性試験は陰性だった。

吸引性呼吸器有害性
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性

魚類に対する急性毒性

物質は、水生生物に対して高い急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 0.1~1 mg/L)。

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 96 h, 2.78 mg/l

LC50, *Cyprinodon variegatus* (シープスヘッドミノー), 96 h, 0.87 mg/l

LC50, *Lepomis macrochirus* (ブルーギルサンフィッシュ), 96 h, 3.7 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48 h, 3.58 mg/lEC50, イースタン オイスター (*Crassostrea virginica*), 48 h, 0.64 mg/l**藻類/水生植物に対する急性毒性**EbC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 止水式試験, 72 h, バイオマス, 14.9 mg/lEC50, 珪藻 (*Navicula* 属), 120 h, バイオマス, 2.35 mg/lEC50, イボウキクサ (*Lemna gibba*), 14 d, 14.56 mg/l**水生環境有害性(長期間)****魚類に対する慢性毒性**最大無影響濃度, *Pimephales promelas* (ファットヘッドミノウ), 流水式試験, 33 d, 生存, 0.0318 mg/l**無脊椎動物に対する慢性毒性**最大無影響濃度, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 21 d, 子孫の数, 0.0701 mg/l**地上生物に対する毒性**

物質は、鳥に対して中等度の急性毒性を示す (LD50 51~500 mg/kg)。

物質は、混餌投与すると、事実上、鳥に対して毒性を示さない (LC50 > 5000 ppm)。

経口 LD50, *Colinus virginianus* (コリンウズラ), 死亡率, 139.8mg/kg 体重食餌 LC50, *Anas platyrhynchos* (マガモ), > 6243mg/kg 餌**土壌生息生物類に対する毒性**LC50, *Eisenia fetida* (ミミズ), 14 d, 55.6 mg/kg**残留性・分解性**

生分解性: 生分解は好氣的条件 (有酸素) で起こるであろう。

10-day Window: 不合格

生分解: 4.9 %

方法: OECD テストガイドライン 301D あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 1.281 mg/mg

生物学的酸素要求量 (BOD)

培養時間	BOD
	0.148 mg/mg

水中での安定性 (半減期)

加水分解, 半減期, 2.3 - 4.75 d

光分解性

大気中半減期: 7 - 12 h

生体蓄積性

生体蓄積性: 製品としてのデータなし。類似物質について 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 1.82 - 2.1 測定値

土壌中の移動性

類似物質について

土壌中移動性がきわめて大きい(Koc 0~50)。

分配係数(Koc): 44.7 測定値

オゾン層への有害性

1, 3 - ジクロロプロペンの成層圏のオゾン破壊係数(ODP)は 0.002 である。(GFC12 の ODP=1 とする。)

他の有害影響

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。以下の情報は購入時の状態のときのみ適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を決める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID) :

国連輸送名	PESTICIDE, LIQUID, TOXIC, FLAMMABLE, N. O. S. (1,3-ジクロロプロペン)
国連番号	UN 2903
国連分類	6.1 (3)
容器等級	II
環境危険有害性	1,3-ジクロロプロペン

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG) :

国連輸送名	PESTICIDE, LIQUID, TOXIC, FLAMMABLE, N. O. S. (1,3-ジクロロプロペン)
-------	--

国連番号	UN 2903
国連分類	6.1 (3)
容器等級	II
海洋汚染物質(該当・非該当)	該当
MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC また は IGC コードに従い積荷を 運搬する。	Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO) :

国連輸送名	Pesticide, liquid, toxic, flammable, n.o.s. (1,3-ジクロ ロプロペン)
国連番号	UN 2903
国連分類	6.1 (3)
容器等級	II

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

化審法

化審法 第 2 種特定化学物質

消防法

危険物 第 4 類第 2 石油類 (非水溶性) 指定数量 1000L 危険等級Ⅲ 「火気厳禁」

労働安全衛生法

変異原性が認められた化学物質

安衛法 通知対象物質 安衛法 表示対象物質

成分**CASRN**

1, 3-ジクロロプロペン	542-75-6
---------------	----------

毒物及び劇物取締法

指定令第 2 条 劇物

化管法 (PRTR 法)

特定第 1 種指定化学物質

成分	CASRN	濃度又は濃度範囲
1,3-ジクロロプロペン	542-75-6	97.5%

船舶安全法
引火性液体類

水質汚濁防止法
有害

航空法
引火性液体類

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)

本製品は防腐剤/殺虫剤用途として使用され、当該適用法令の対象である。本剤は化学品登録求から免除される成分を含んでいる。本製品の意図的成分は化学品登録されていないが、免除される用途のみに使用されるからである。

16. その他の情報

有害危険性評価システム

NFPA

健康	火災	反応性
2	3	1

改定

ID 番号: 101201645 / A150 / 発行日: 2017/08/08 / 版番号: 2.2

DAS コード: XRM-5048

最新の改定事項は、この文書全体にわたって、左側の余白にボールド体の二重線で強調してある。

凡例

ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値 (TLV)
SKIN	経皮吸収
TWA	8 時間、時間加重平均

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社は、お客様や (M) SDS の受領者の皆様が、この (M) SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M) SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の (M) SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した (M) SDS に関しては一切責任を負いません。

他の情報源から入手した(M)SDSをお持ちの場合や、お手元の(M)SDSが最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。